

## 24. 評価と支援

生活科では、作ったり、育てたり、探したり、表現したりする学習が展開されます。子供たちが育てたい花や野菜を栽培したり、小動物を飼育したり、探検に出かけて調べたり、そして、そこで見つけたこと、思ったこと、感じたことなどを自分なりに表現したりするという活動を大切にしています。

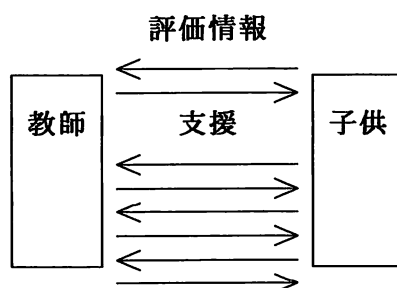
したがって、活動の内容が一人一人異なる生活科においては、何よりもその子なりのものの見方や感じ方、考え方といった個々の内面を理解し、受け止めながら、思い・願いの実現へ向けた評価と支援を行う必要があります。

### 評価と支援の一体化とは

子供は環境に体ごとでかかわり、かかわりの成果を実感しながら、思いや願いをふくらませていく。そのとき「…したから…できたんだね」のように、個の内面を評価したうえでのことばかけが子供の納得を生み、支援としての効力をもつと言えよう。

このような支援によって、子供自身が納得できるかかわりを支えることになり、意欲と自信を生むことにつながっていくのである。

生活科における評価と支援では、様々な手立てで得た評価情報を即時に支援に生かしていくことやその支援の結果を評価情報として入手して次の支援に生かしていくことが大切である。この評価・支援の活動を絶え間なく行っていくことが評価と支援の一体化である。



### —— 実践から ——

「遊び名人」を目ざし、手作りおもちゃの製作に没頭している子。一生懸命作っているストロー飛行機が、何度やってもうまく飛びません。先ほどから見守っていた先生が近寄って「こまったね…、ここの空気が抜けているんじゃないかな？」とアドバイスした結果、「おお、飛んだぁ！」見事遠くへ！的確な評価と支援で、子供は喜びや満足感、自信を味わいます。